

博士後期課程への進学をご検討中の皆様へ

博士後期課程生活健康科学プログラム

武村 由美

はじめまして。私が博士後期課程を修了してもう2年が過ぎましたが、博士論文と格闘した4年間は、私の人生において得難い濃密な時間でした。そして、その時間を今とても有難く感じています。また、私の体験が少しでも皆様のご参考になるならとてもうれしく思います。

「始まりはすべて小さいーキケロ」

さて、私は約25年前に科目履修生として放送大学に入学しましたが、その時は博士の学位を取得することなど思いもよりませんでした。ただ関心のある科目を1学期に2つ3つ選んで、日常のなかの少し知的な時間を楽しんでおりました。しかし、塵も積もれば…で取得単位数が積み重なり学士の学位を取得することができました。ある日、放送大学に修士課程ができたとのニュースを知りました。私は卒論を書かずに学部を卒業しており、研究論文を書くことに少し憧れを感じておりましたのでダメもとで入学試験に挑戦することを決心し、何とか合格することができました。

「焦らない。でも、あきらめないー斎藤茂太」

修士課程に進学したものの研究テーマを明確に定められないまま半年がすぎ、見かねた指導教員の宮本みち子先生（現在は名誉教授）が「高知だったら中山間地域の一人暮らしの高齢者がどんなふうに暮らしているのか調べてみるのはどうですか」と、研究テーマをご提案くださいました。同じ高知とはいっても山村の暮らしはまったくわかりません。そこで、私は2年間中山間地域に家を借りて、週末をその家で過ごしながらか修士論文を書くことにしました。調査は難航し、修士論文も3年かけてやっと書き終わりました。そして修士課程を修了したときも博士の学位を取得しようなどとは思っていませんでした。しかし、修士論文の内容は十分ではないという思いは消えませんでした。そこで、大阪の進学説明会に出席して、大勢の志願者に圧倒されながらも思い切って博士後期課程の入試を受験することを決め、幸い入学することができました。入学後、1年目は、映像でしかお目にかかったことのない

い先生方から、それぞれのご専門について直に詳しくご講義いただき、その内容について議論するという夢のような時間がありました。先生方の深い知識と見識に圧倒されながらもたくさんの知識に触れ、世界が広がったような感覚がありました。そして、本来なら同時に自分の研究も進めるべきでしたが、私はうまく仮説を立てることができず、あっというまに3年が過ぎました。しかし、不思議とやめてしまおうという発想はありませんでした。そして4年目、資料の山の中に埋もれて朦朧とした頭でようやく博士論文を完成させることができました。振り返ってみれば、博士論文に取り組んだ期間は、知識不足と文章力のなさに悩み、苦しみ、自分自身との闘いだっ たような気がします。先生方のご指導がなければ、まだ調査データと文献の山の中でさ迷っていたかもしれません。ですから、軽々しく博士課程への進学をおすすめはしませんが、必ず皆様の知への好奇心を満たしてくれることと思います。そして、この冒険は年齢を問わず挑戦できます。「あたらしい門出をする者には新しい道がひらける」といいます。是非、挑戦してみてはいかがでしょうか。